



STEREO POWER AMPLIFIER

M-10X

このたびは、ラックスマンのステレオ・パワー・アンプリファイヤー M-10X をお求めいただきまして、誠にありがとうございます。

NHK がラジオの本放送を開始した 1925 年、錦水堂ラジオ部として創業されたラックスマンは、90 余年にわたって数多くの製品をオーディオファンや音楽ファンに届けてまいりました。その間、いつの時代にあってもオーディオと音楽を愛する人たちの熱い心は変わりませんでした。

音楽に込められたアーティストの情念を余さず忠実に再現する、そのときの感動の深さと機器への愛着の深さこそがオーディオにとっての最高の価値であると私たちは考えます。

縁あってラックスマン製品をお選びいただきましたことは、オーディオと音楽に対して私たちと同じ情熱と価値観を共有できることであると、心から嬉しく思っております。

本機を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みください。それによって本機の性能が十分に発揮され、最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただくことができます。お読みになった後は保証書、安全上のご注意と共に大切に保管してください。

末永くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

目次

使用上の注意	1
本機の特徴	2
各部の名称と用途	4
接続方法	8
ブロックダイアグラム	13
規格	14
修理に出される前に	15
アフターサービスと品質保証について	16

アンプの置き場所について

換気や放熱が充分行われる場所に設置してください。特に、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなど高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも、故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

通風孔について

天板・底板の通風孔は塞がないでください。なお、ラックなどへ設置する場合は、十分な空間を取り、扉は開放して使用し、他の機器を積み重ねたり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。

天板の上部は 30cm 以上の空間を空け、左右は 5cm 以上の空間を空けてください。

底板の下部には 4 本の脚の高さの空間を空けてください。

併用機器との接続時の注意

本機にコントロールアンプなどの入力機器を接続するときには、本機をはじめ、すべての併用機器の電源スイッチを必ず切ってください。スピーカーを破損するほどのノイズが発生したり、場合によっては故障の原因になることがあります。

本機の各入力端子に差し込むピンプラグは、しっかりと差し込んでください。アース側が浮いているとハムなどのノイズが発生し、S/N 比悪化の原因になります。

スピーカー接続時のご注意

スピーカーシステムを接続するときには、本機のスピーカー端子やスピーカーの入力端子のところで、⊕⊖ 間がショートすることのないよう十分に注意してください。ショートしたままアンプに大信号が加わると出力回路に大電流が流れ、場合によっては故障の原因になります。

電源オン後すぐには音が出ません

本機には出力回路を切り離すためのタイム・ミューティング回路が組み込まれているため、電源オン後すぐには音が出ません。

このタイム・ミューティング回路が解除されるまでに音量が上がっていると、急に大きな音が出てくることになります。コントロールアンプなどの入力機器のボリューム・コントロールは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてから適度な音量にセットしてください。

保護回路について

本機にはアンプやスピーカー保護のため、過電流検出、異常高温検出、DC ドリフト検出による保護回路を設けています。この保護回路が動作した場合、スピーカー端子への出力を中絶するとともに、スタンバイ・インジケータが点灯し、本機はスタンバイ状態になります。メイン電源スイッチをオフにしてから AC プラグをコンセントから抜き、一定時間経過後に再度 AC プラグをつなぎ電源を投入しても保護回路がたびたび動作する場合には、弊社サービスセンターにご相談ください。

修理・調整について

修理・調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービスセンターへご依頼ください。

お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねる原因となるため使用しないでください。

安全上のご注意



警告



本機は重量物です。開梱や持ち運び、設置は、必ず 2 人以上で行ってください。1 人で行うとけがの原因となる場合があります。

ステレオ音のエチケット



- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
- 窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。

本機の特徴

4 × 2 アウトプット構成

M-900uに採用された4 × 4アウトプット思想を継承し、3段ダーリントンで構成された4パラレル・プッシュプル増幅回路を、各チャンネルあたり2モジュール使用する4パラレル×2モジュール構成を採用。
150W+150W (8 Ω)、300W+300W (4 Ω) の定格出力。

LIFES – Luxman Integrated Feedback Engine System –

ラックスマン独自の増幅帰還回路 ODNF を刷新し、より音楽性豊かなオーディオアンプの心臓部を担うために新たに開発された増幅エンジン LIFES を搭載。
音楽信号の歪みを検出するサブアンプの入力部にはデュアル FET を、カスコード回路、カレントミラー回路にはデュアルトランジスタを採用し、無帰還アンプのような素直な音質と NFB による優れた高域特性を兼ね備えた、増幅回路全体の高音質化を実現。

BTL 接続モード

本機を2台使用したハイクオリティ/ハイパワーなモノラルアンプ構成を実現する BTL 接続モード。

2系統の入力セレクター

銅合金製 RCA 端子のアンバランス入力と、ノイトリック社製 XLR 端子を採用した、高品位なバランス信号伝送に対応したバランス入力との切替えが可能。

バランス入力位相切替え

海外製入力機器などの接続時に便利なバランス入力位相切替えスイッチ搭載。

セレクター・リレー

当社アンプの要所に採用された、セパレーションとクロストーク性能を高める高音質セレクター・リレー採用。

ハイイナーシャ電源

大容量の平角銅巻線を採用した EI コアタイプ電源トランスとカスタム仕様の 20,000 μ F × 4 本のブロックコンデンサーを組み合わせた、ハイイナーシャ（高慣性）電源回路。

4 パラレル・スピーカーリレー

低抵抗値のスピーカーリレーを各チャンネルあたり4パラレル構成で搭載し、スピーカー出力ラインのインピーダンスを低減。

ショットキーバリア・ダイオード

電源整流回路にはスイッチング・ノイズが少なく直流電圧への変換効率の高い京セラ製ショットキーバリア・ダイオードを採用。また、電圧増幅段の電源整流回路には高耐圧なローム製 SiC ショットキーバリア・ダイオードを採用。

オリジナル OFC ワイヤー

内部配線は各芯スパイラルラップ・シールドと芯線の非メッキ処理で自然な信号伝送を実現した、オリジナルの OFC ワイヤーを採用。

ピールコート PCB

音声回路の基板には 100 μ m 厚銅箔の上にレジストを塗布せず金メッキ処理、レジストの誘電効果を排除。

高品位アナログメーター

シャワーライト照明の大型アナログメーターを装備、照明オフ / メーターオフ設定可能。

ループレス・シャーシ

シャーシ電流によるアース・インピーダンスの上昇をシャットアウトする、独立コンストラクションのループレス・シャーシ構造。

大型スピーカー端子

極太のスピーカーケーブルも装着しやすく、Y ラグやバナナ端子に対応した、LR 同一特性レイアウトのスピーカー端子。

AC インレット

外付け電源ケーブルの装着を可能にするハイグレードな金メッキ（非磁性処理）AC インレット。

電源ケーブル (JPA-17000)

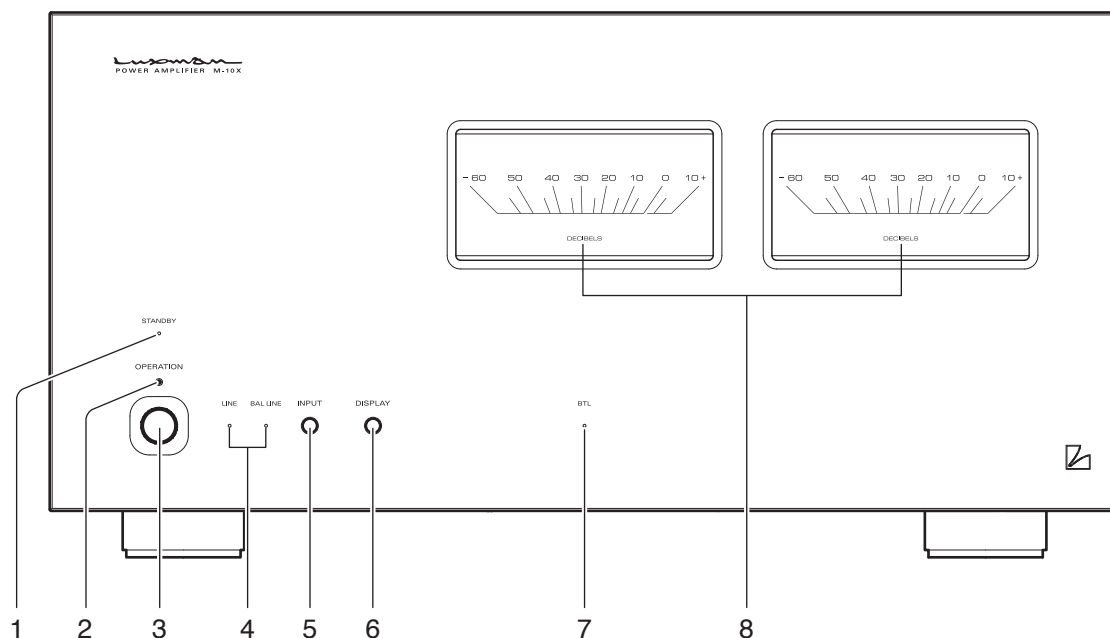
聴感上の周波数のうねりを排除するノンツイスト構造。3.5 m² 無酸素銅 (OFC) の線材に、高純度 7N-Class D.U.C.C (99.99998% 以上の銅) の線材を複合した極太線を採用。

鋳鉄製インシュレーター

不要な外部振動を排除し、本体の重量を強固に支えるグラデーション鋳鉄製インシュレーターを装着。

各部の名称と用途

本体正面



1. スタンバイ・インジケータ (STANDBY)

本機がスタンバイ状態であることを示すインジケータです。

リアパネルにあるメイン電源スイッチをオン/スタンバイにしてオペレーション・スイッチがオフのとき、点灯しています。

オペレーション・スイッチがオンのとき、およびメイン電源スイッチがオフのときは消灯します。

2. オペレーション・インジケータ (OPERATION)

オペレーション・スイッチをオンにするとタイム・ミュート中は点滅 (約 15 秒) し、その後動作状態になると点灯します。

3. オペレーション・スイッチ (OPERATION)

本機をスタンバイ状態から動作状態にするためのスイッチです。

リアパネルにあるメイン電源スイッチをオン/スタンバイにしてスタンバイ状態にしてからこのスイッチをオンにすると動作状態になります。

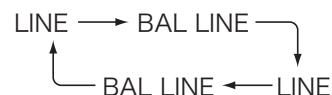
配線、接続時には必ずこのスイッチをオフにしてください。

4. インプット・インジケータ (LINE / BAL LINE)

インプット・スイッチで選択されている入力を表示します。

5. インプット・スイッチ (INPUT)

リアパネルにあるアンバランス入力端子 LINE とバランス入力端子 BAL LINE を選択するためのスイッチです。押す度に LINE → BAL LINE → LINE → BAL LINE → LINE……と変化します。



工場出荷時は、LINE に設定されています。

このスイッチを切替えると入出力ミュート回路が作動し、その間は音が出ません。

6. ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY)

パワーメーターの照明、表示を選択するスイッチです。リアパネルにある BTL 切替スイッチの設定 (STEREO/BTL (MONO)) により、動作が異なります。

STEREO のとき

- ・押す度に 照明 / パワーメーター共オン → 照明オフ (パワーメーターのみ) → 照明 / パワーメーター共オフ → 照明 / パワーメーター共オン → …… と変化します。

BTL (MONO) のとき

- ・パワーメーターは左側のみ動作します。
- ・押す度に 左右照明 / パワーメーター (左) オン → 左照明のみ / パワーメーター (左) オン → 照明オフ (パワーメーターのみ) → 照明 / パワーメーター共オフ → 左右照明 / パワーメーター (左) オン → …… と変化します。

工場出荷時は、以下のように設定されています。

STEREO 時	パワーメーター照明オン パワーメーター表示オン
BTL (MONO) 時	パワーメーター照明左右オン パワーメーター表示オン (左)

なお、ディスプレイ・スイッチの設定は STEREO、BTL (MONO) で各々メモリーされます。

7. BTL インジケーター (BTL)

リアパネルにある BTL 切替スイッチで BTL (MONO) が選択されたときに点灯し、本機が BTL 接続のモノラルアンプになったことを示します。BTL 切替スイッチを STEREO 側にすると消灯し、本機がノーマル接続のステレオアンプになったことを示します。

工場出荷時は、消灯 (STEREO 側) に設定されています。

8. パワーメーター

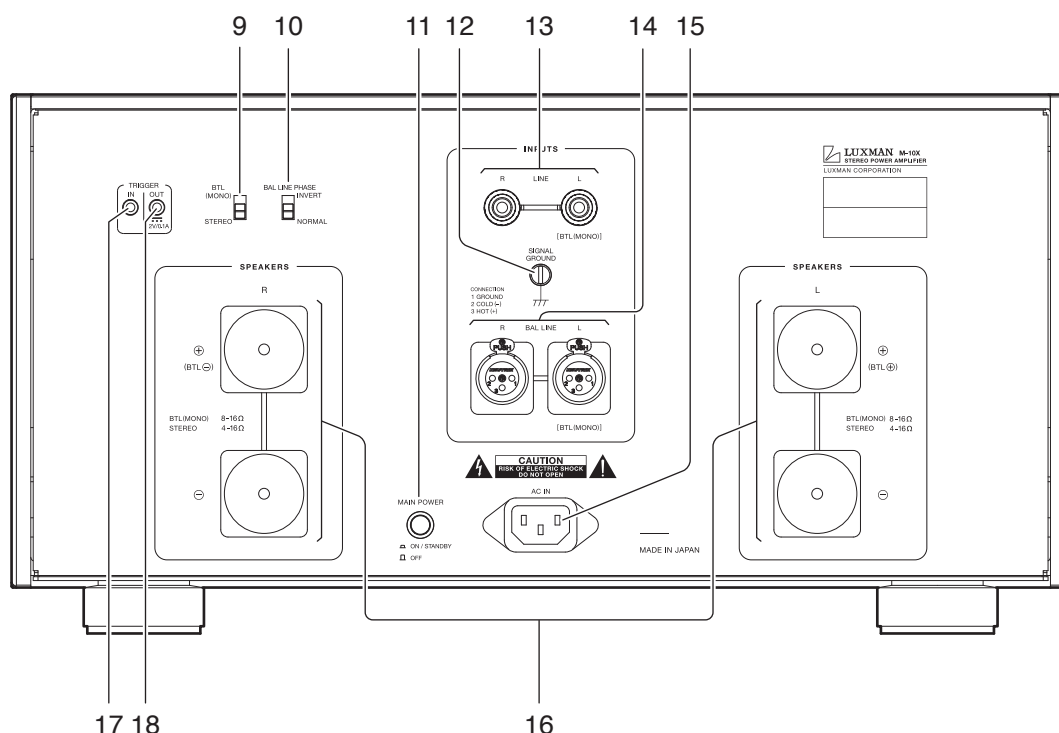
スピーカーへの出力レベルを表示する、照明付きのパワーメーターです。

ディスプレイ・スイッチの設定、及びリアパネルにある BTL 切替スイッチの設定 (STEREO/BTL (MONO)) により、照明 / パワーメーター動作が異なります。

- ・パワーメーター動作中は出力レベル $-\infty$ から +10dB までデシベルで表示します。
- ・STEREO 時は、左側が L チャンネルのレベルを表示し、右側が R チャンネルのレベルを表示します。
- ・BTL (MONO) 時は、左側のみでレベルを表示します。

各部の名称と用途

本体後面



9. ステレオ／ BTL 切替スイッチ (STEREO / BTL (MONO))

STEREO を選択するとステレオ・パワーアンプとして動作します。

BTL (MONO) を選択すると BTL 接続のモノラル・パワーアンプとして動作します。

工場出荷時は、STEREO に設定されています。

10. フェーズ・インバーター・スイッチ (BAL LINE PHASE)

バランス入力端子使用時の位相切替スイッチです。入力機器の位相に合わせてください。

- NORMAL ポジション
- ① GROUND
 - ② COLD (-)
 - ③ HOT (+)
- INVERT ポジション
- ① GROUND
 - ② HOT (+)
 - ③ COLD (-)

11. メイン電源スイッチ (MAIN POWER)

本機をスタンバイ状態にするためのメイン電源スイッチです。

このスイッチをオン/スタンバイにすると、フロントパネルにあるスタンバイ・インジケータが黄色に点灯し、本機がスタンバイ状態になったことを示します。このスイッチをオフにすると、フロントパネルにあるスタンバイ・インジケータが消灯し、メイン電源オフ状態になったことを示します。

12. シグナル・グラウンド (アース端子) (SIGNAL GROUND)

本機に接続する機器のアース用端子です。この端子は他の機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全のためのアースではありません。

13. アンバランス入力端子 (INPUTS LINE)

ラインレベルのアンバランス音声信号を入力するコアキシャル入力端子です。コントロールアンプなどの入力機器のアンバランス出力をピンプラグ・ケーブルを使用し接続してください。

LINE に入力された音声信号は、フロントパネルにあるインプット・スイッチで選択され出力されます。

14. バランス入力端子 (INPUTS BAL LINE)

ラインレベルのバランス音声信号を入力するキャノンコネクター入力端子です。コントロールアンプなどの入力機器のバランス出力をバランス・ケーブルを使用し接続してください。

BAL LINE に入力された音声信号は、フロントパネルにあるインプット・スイッチで選択され出力されます。正しく音楽再生を楽しむ為に、コントロールアンプなど入力機器のバランス出力の位相に合わせて本機のフェーズ・インバーター・スイッチを切替えてください。

BTL (MONO) を選択したときはL側からの信号のみ有効ですので、入力機器の左チャンネル (L側) 出力端子を左チャンネル用 M-10X のL側入力端子に、入力機器の右チャンネル (R側) 出力端子をもう1台の右チャンネル用 M-10X のL側入力端子に、それぞれ確実に接続してください。

R側入力端子からの信号は出力されません。

15. AC インレット (AC IN)

付属の電源ケーブルを接続します。電源は AC100V 家庭用コンセントをご使用ください。

16. スピーカー端子 (SPEAKERS)

本機のスピーカー端子のL側に左スピーカーを、R側に右スピーカーを、極性を合わせて接続します。

このとき、スピーカーシステムの⊕側端子を本機のスピーカー端子の⊕側 (赤) 端子に、スピーカーシステムの⊖側端子を本機のスピーカー端子の⊖側 (黒) 端子に、確実に接続してください。

なお、本機に接続されるスピーカーシステムは、4Ω ~ 16Ω のインピーダンスのものがご使用になれます。

BTL (MONO) では、本機はモノラル・パワーアンプになりますので、左右どちらかのスピーカーシステムしか接続できません。ステレオ再生をする場合はもう1台の M-10X が必要になります。

BTL (MONO) での接続は、スピーカーシステムの⊕側端子を本機のL側スピーカー端子の⊕側 (赤) (BTL ⊕) 端子に、スピーカーシステムの⊖側端子を本機のR側スピーカー端子の⊕側 (赤) (BTL ⊖) 端子に、確実に接続してください。

なお、本機に接続されるスピーカーシステムは、BTL モードの場合、8Ω ~ 16Ω のインピーダンスのものがご使用になれます。

17. トリガー入力端子 (TRIGGER IN)

トリガー入力端子にトリガー出力端子のあるコントロールアンプやパワーアンプなどを接続します。リアパネルにあるメイン電源スイッチをオン/スタンバイにした状態で、接続元の機器に連動して本機を動作状態/スタンバイ状態にすることができます。

なお、メイン電源スイッチがオフの状態では連動できません。

18. トリガー出力端子 (TRIGGER OUT)

トリガー出力端子からトリガー入力端子のある機器 (M-10X など) に接続すると本機に連動して接続機器を動作状態/スタンバイ状態にすることができます。

メモリー・リセット

全ての設定を出荷時の設定に戻すには、以下の操作を行います。

- (1) 電源をスタンバイ状態にします。
 - (2) 以下はディスプレイ・スイッチを押し続けながら操作します。
 - (3) オペレーション・スイッチをオンにします。
 - (4) 5秒後にインプット・インジケーター、LINE と BAL LINE が両方点灯します。
 - (5) インプット・スイッチを1回押します。
 - (6) 電源がスタンバイ状態になります。
 - (7) ディスプレイ・スイッチを放します。
- これで操作完了です。

工場出荷時の設定

項目	設定値
インプット	LINE
ディスプレイ	
STEREO 時	パワーメーター照明オン パワーメーター表示オン
BTL (MONO) 時	パワーメーター照明左右オン パワーメーター表示オン (左)

接続方法

接続する前に

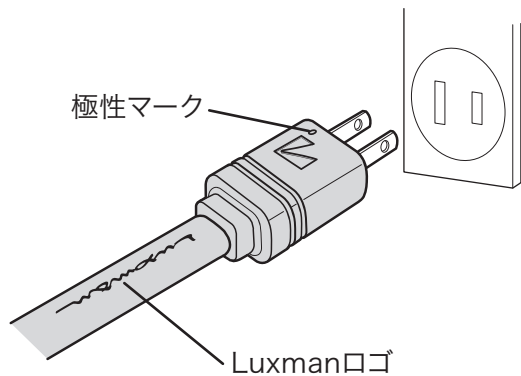
他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック部（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

接続するときは、思わぬノイズの発生による事故を防止するため、本機のメイン電源スイッチと併用機器の電源をすべてオフにしてください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニングルームなどにある AC100V のコンセントに差し込んでください。プラグにある極性マークがコンセントに向かって左側になるように（ケーブルの Luxman ロゴが見えるように）AC プラグを差し込むと、電源極性が正しく設定されます。

一般的に AC コンセントは、向かって左側の若干長い穴が接地用端子（W 表記）になっています。



入力端子とコントロールアンプなどの入力機器との接続

コントロールアンプなどの入力機器の出力端子と本機の入力端子の間を、ピンプラグ・ケーブルあるいはバランス・ケーブルで接続します。

このとき、左右のチャンネルを逆に接続しないように充分注意し接続してください。左右のチャンネルを逆に接続すると音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなります。

また、ピンプラグ・ケーブルをご使用の場合は、ピンプラグ・ケーブルのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因となります。接続プラグは確実に押し込んで接続してください。

トリガー入力端子と他の機器との接続

C-900u 等のコントロールアンプ、M-10X 等のパワーアンプなどの機器を接続します。これにより接続元の機器に連動して本機を動作状態／スタンバイ状態にすることができます。

なお、C-900u 等のモジュラー出力端子の機器には付属のモジュラー変換ケーブルを使用し、M-10X 等の 3.5mm 出力端子の機器には市販の 3.5mm ミニプラグモノラルケーブルを使用して接続します。

他社の製品から接続する場合には TRIGGER 出力が 12V であることを確認の上、接続してください。また、本機のトリガー入力 12V での消費電流は 13mA となっています。

トリガー出力端子と他の機器との接続

M-10X 等のトリガー入力端子のある機器と市販の 3.5mm ミニプラグモノラルケーブルで接続します。これにより本機に連動して接続機器を動作状態／スタンバイ状態にすることができます。

本機より供給できる 12V の出力電流は最大 100mA となっています。これ以上の負荷になるものを接続やショートした場合など、故障の原因になりますのでご注意ください。

スピーカーの接続

(ステレオ接続)

本機の SPEAKERS L 端子に左チャンネル用のスピーカーを、SPEAKERS R 端子に右チャンネル用のスピーカーを接続します。

スピーカーシステムの ⊕ 端子を本機のスピーカー端子の赤 (⊕ 側) 端子に、スピーカーシステムの ⊖ 端子を本機のスピーカー端子の黒 (⊖ 側) 端子に、確実に接続してください。

このとき、左右スピーカーシステムの (どちらか一方の) ⊕ 端子、⊖ 端子を逆に接続すると、左右のスピーカーシステムから再生される信号の位相が逆になり、低音が減少したり、音の定位が悪くなるなど、正常なステレオ再生ができなくなりますので、十分に注意してください。

(BTL 接続)

BTL (MONO) を選択したとき、本機はモノラル・パワーアンプになりますので、ステレオ再生を行うにはもう一台の M-10X が必要になります。

左チャンネル用 M-10X のスピーカー端子に左チャンネル用のスピーカーを、右チャンネル用 M-10X のスピーカー端子に右チャンネル用のスピーカーを接続します。スピーカーシステムの ⊕ 端子を本機の SPEAKERS L 端子の赤 (BTL⊕ 側) 端子に、スピーカーシステムの ⊖ 端子を本機の SPEAKERS R 端子の赤 (BTL⊖ 側) 端子に、それぞれ確実に接続してください。

- ・スピーカーケーブルの芯線は、他のスピーカーケーブルの芯線、または本機の金属部分とは接触させないでください。本機やスピーカーの故障の原因になります。
- ・本機の電源がオンの時、端子金属部やケーブル芯線に触れないでください。感電するおそれがあります。
- ・正常なステレオ再生を行うため、左右チャンネルおよび ⊕ ⊖ 端子の接続が逆にならないよう、充分注意してください。

スピーカー切替えスイッチボックスのなかには、スピーカー端子の ⊖ 側が共通グラウンドに接続されているものがあります。本機が BTL (MONO) の場合、本機の反転出力側がスイッチボックスの共通グラウンドにショートされ過大電流が流れることとなります。保護回路が作動し、故障の原因になりますので、このようなスイッチボックスは使用しないでください。

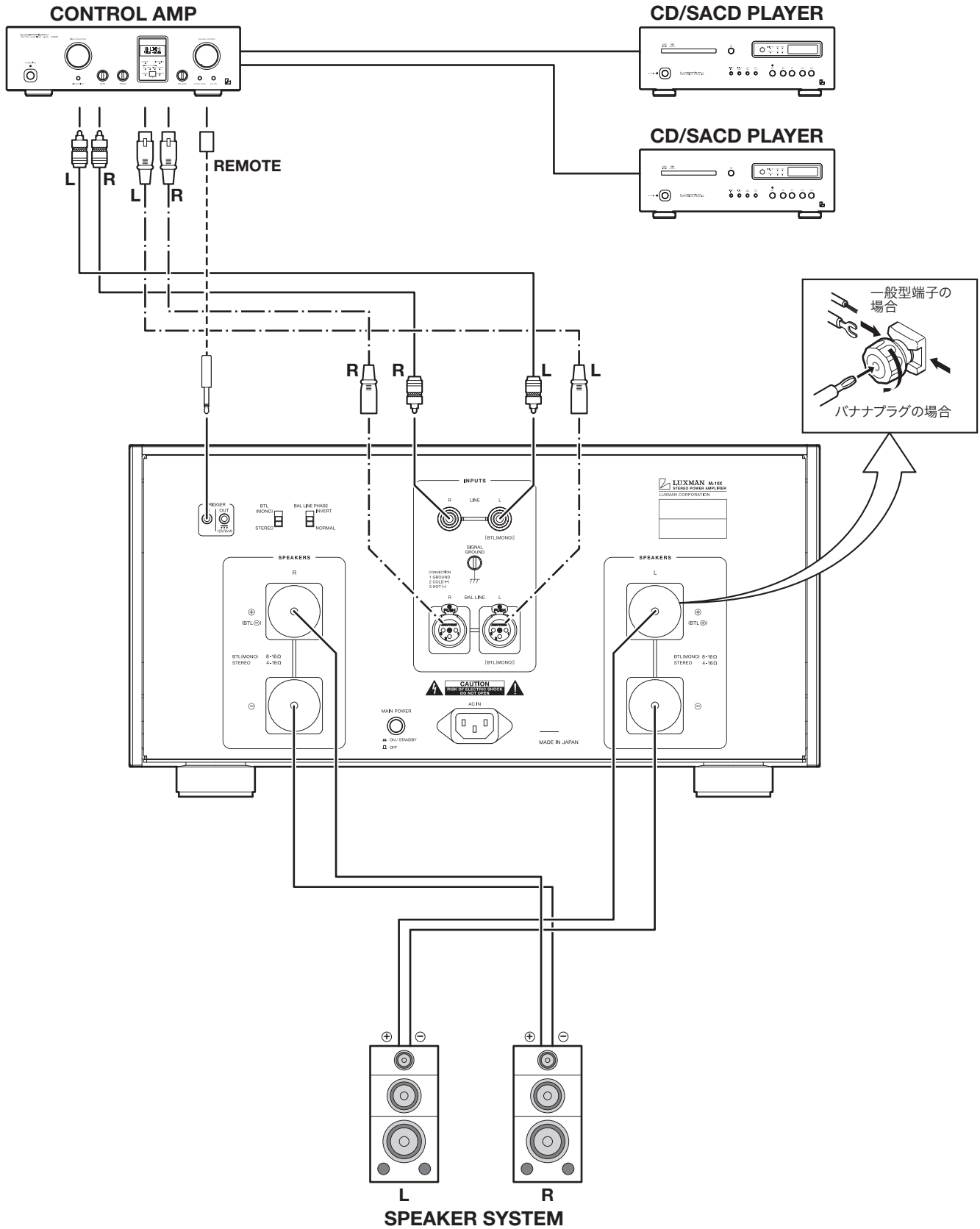
BTL (MONO) の場合は、直接スピーカーシステムと接続するか、スピーカー端子の ⊖ 側も独立して切替わるスイッチボックスを使用してください。

過大入力からアンプとスピーカーを保護するために、本機と入力機器を接続するとき、本機とスピーカーシステムを接続するときは、本機のメイン電源スイッチをオフにするか、本機をスタンバイ状態にしてください。

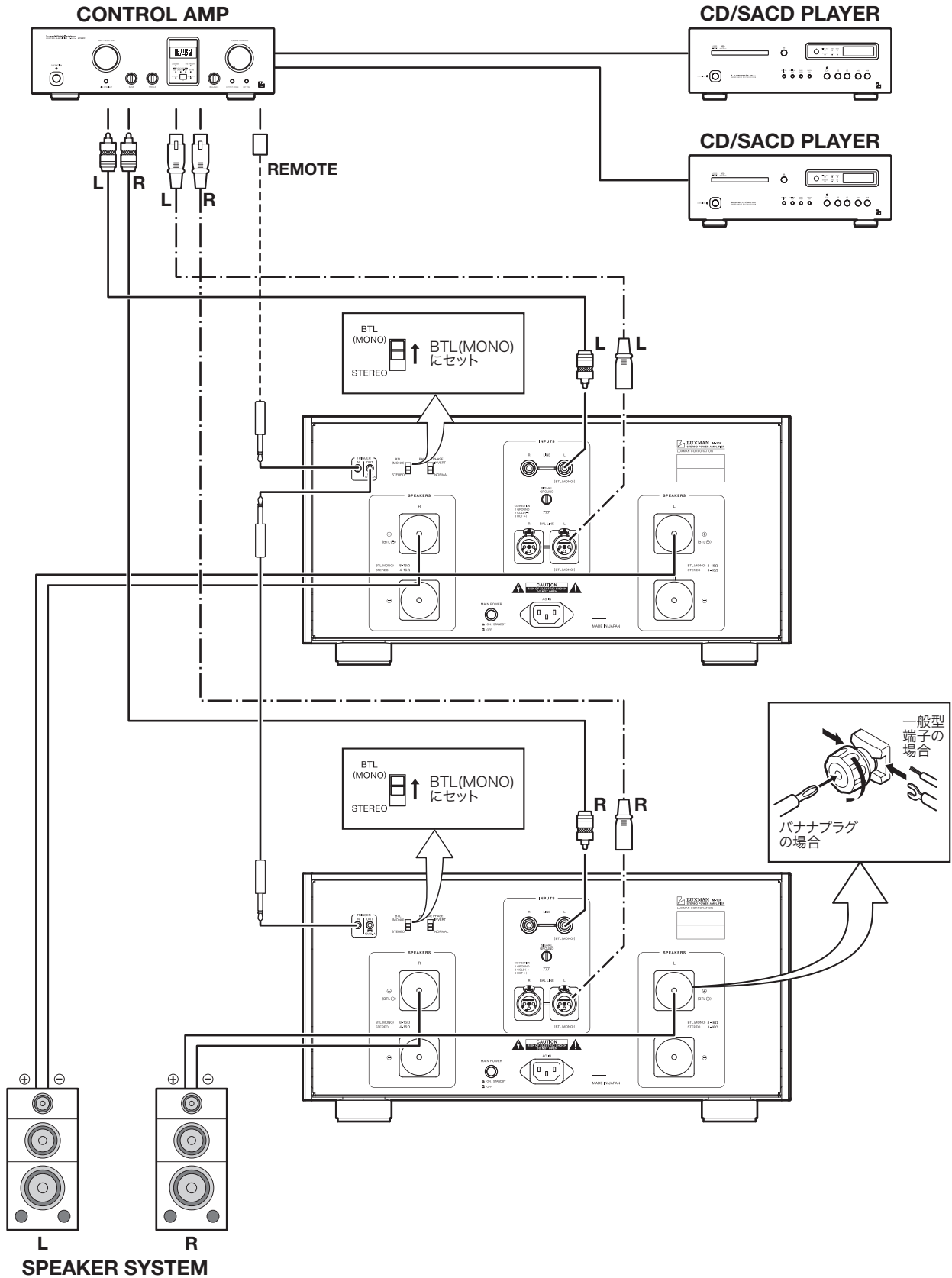
接続完了後に正しく接続されていることを確認してから本機を動作状態にしてください。

接続方法

通常ステレオ再生

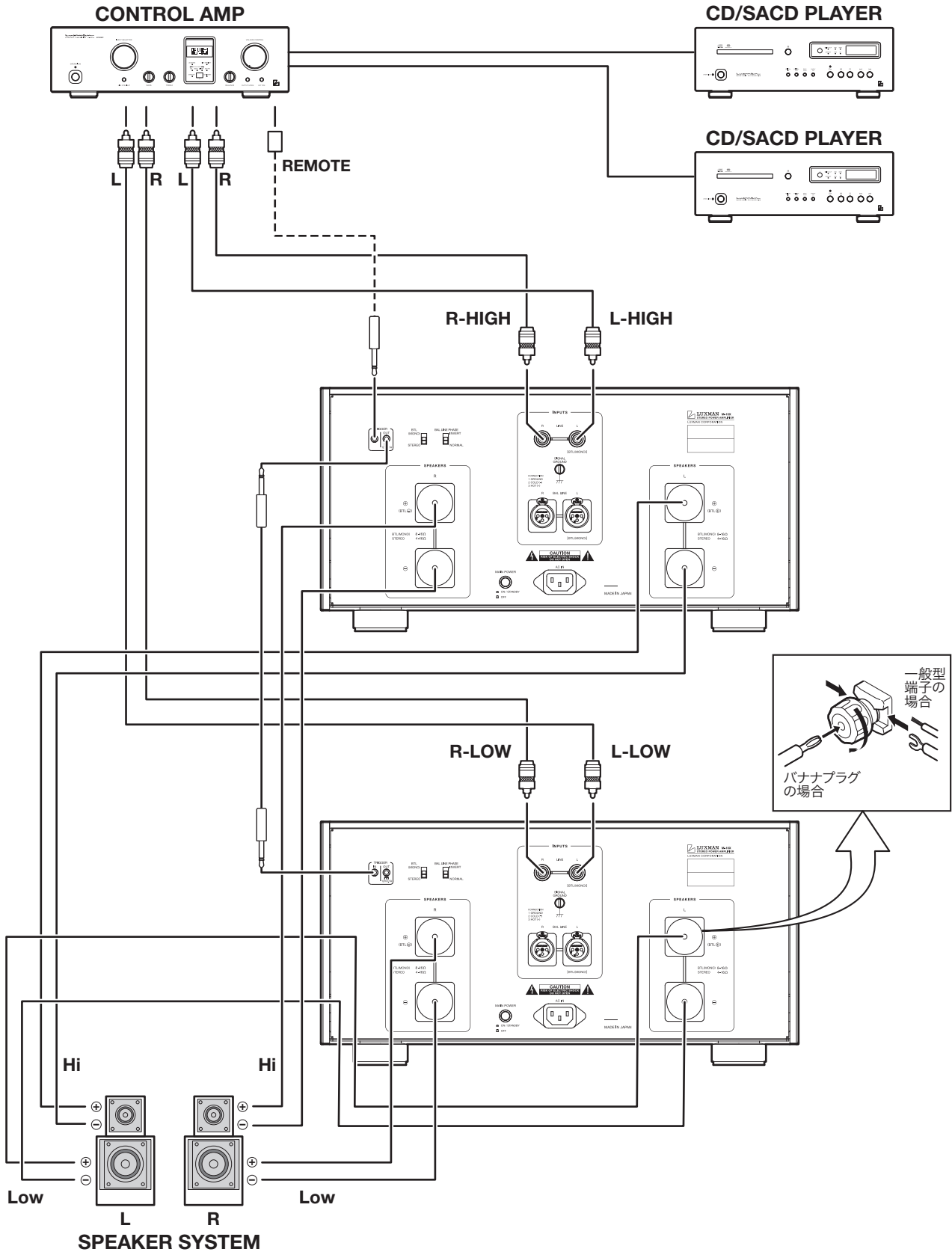


BTL ステレオ再生

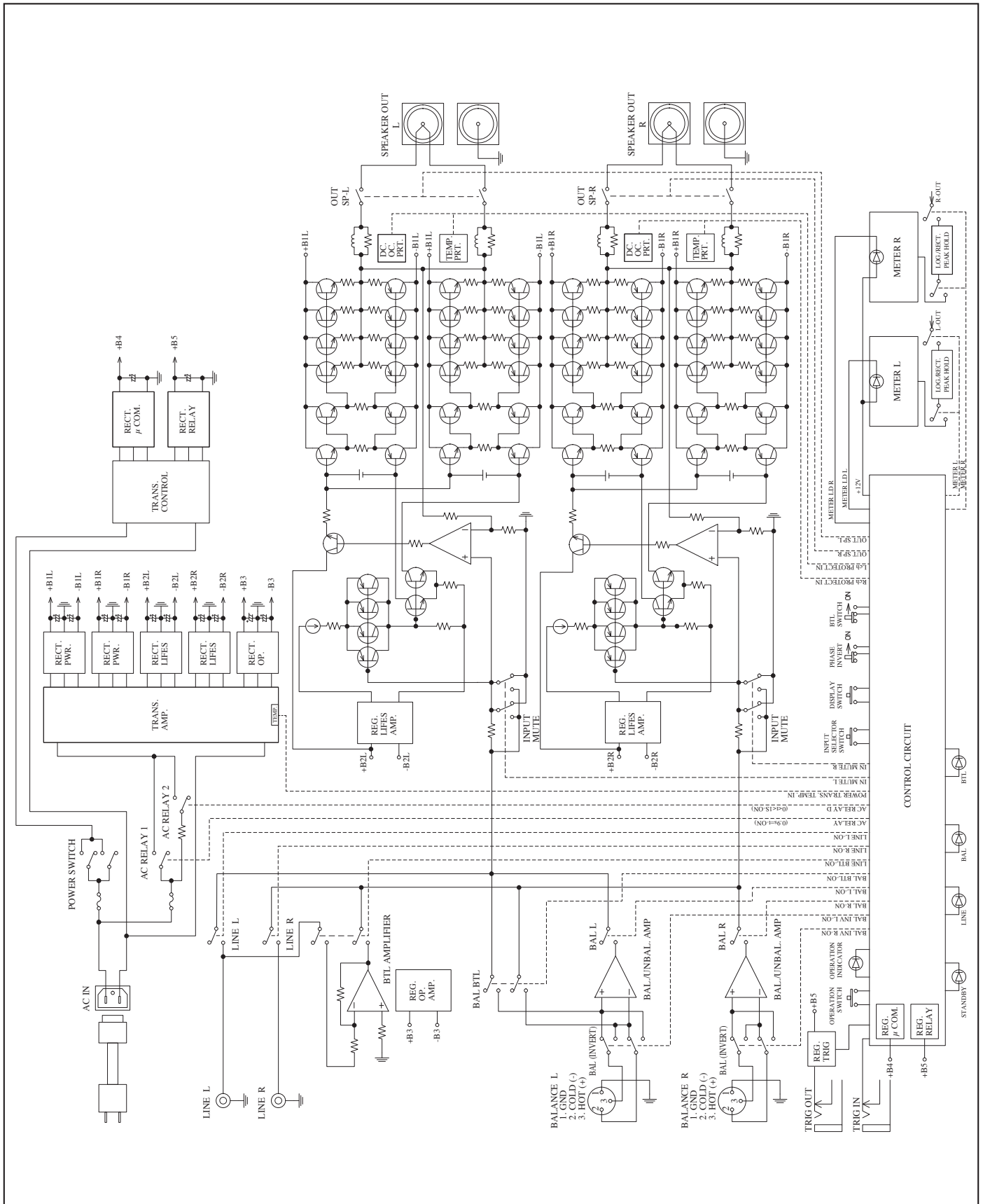


接続方法

バイアンプ・ステレオ再生



ブロックダイアグラム



規格

定格出力 (ステレオ)	150W + 150W (8 Ω) 300W + 300W (4 Ω)
定格出力 (BTL)	600W (8 Ω)
瞬時最大出力 (ステレオ)	1200W + 1200W (1 Ω)
瞬時最大出力 (BTL)	2400W (2 Ω)
入力感度	1.24V / 150W 負荷 8 Ω GAIN 29dB
入力インピーダンス	LINE 51k Ω BAL LINE 28k Ω
全高調波歪率	0.003% 以下 / 1kHz・150W 負荷 8 Ω 0.04% 以下 / 20Hz ~ 20kHz
周波数特性	+ 0, - 0.1dB / 20Hz ~ 20kHz + 0, - 3.0dB / 1Hz ~ 130kHz
S / N 比	117dB (IHF-A 補正, LINE 入力ショート)
ダンピング・ファクター	600 (EIAJ 電流注入法による)
付属機能	<ul style="list-style-type: none">• メイン電源スイッチ• オペレーション・スイッチ• インプット・スイッチ• BTL 切替スイッチ• フェーズ・インバーター・スイッチ• ディスプレイ・スイッチ• パワーメーター• バランス入力端子 1 系統• アンバランス入力端子 1 系統• シグナル・グラウンド端子• スピーカー端子 1 系統• AC インレット• トリガー入力端子• トリガー出力端子
付属品	<ul style="list-style-type: none">• 電源ケーブル JPA-17000• モジュラー / 3.5mm 変換ケーブル• オーナーズマニュアル• 保証登録書• 安全上のご注意 <p>※付属の電源ケーブルは本機専用です。他の機器には使用しないでください。</p>
消費電力	530W (電気用品安全法による規定) 280W (無入力時) 1.0W (スタンバイ時)
電源電圧	AC 100V (50/60Hz)
最大外形寸法	440 (W) × 224 (H) × 488 (D) mm
質量	48.4kg

※規格および外観は予告なく変更することがあります。

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記の表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通り確認してください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくは弊社サービスセンターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくとも点検代、出張費などをいただくことがあります。

症 状	原 因	対 策
オペレーション・スイッチを押しても電源が入らない。	・ ACプラグがコンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。	・ ACプラグをコンセントへ確実に差し込む。
	・ ACプラグがACインレットから外れているか、確実に差し込まれていない。	・ ACプラグをACインレットへ確実に差し込む。
	・ メイン電源スイッチがオフになっている。	・ メイン電源スイッチをオンにする。
トリガー入力を接続したが動作状態にならない。	・ メイン電源スイッチがオフになっている。	・ メイン電源スイッチをオンにする。
音が出ない。	・ 入力機器のボリューム・コントロールが最小音量の位置になっている。	・ 入力機器のボリューム・コントロールを右に回して音量を調節する。
	・ インプット・スイッチで再生する入力信号が選択されていない。	・ インプット・スイッチで再生する入力信号を選択する。
	・ 接続ケーブルの接続が不完全。	・ 接続ケーブルを確実に接続する。
	・ 入力機器の出力レベルが最小になっている。	・ 出力レベルを調節する。
片側だけ音が出ない。	・ 接続ケーブルの片側だけが接続されていない。	・ 接続ケーブルを確実に接続する。
音は出るが、音量が小さい。 片チャンネルだけ音量が小さい。 音像定位がおかしい。 低音が出ない。	・ BTL接続をしているが、ステレオ / BTL切替スイッチがSTEREOになっている。	・ BTL接続をした場合は、ステレオ / BTL切替スイッチをBTL (MONO) にする。
	・ ステレオ接続をしているが、ステレオ / BTL切替スイッチがBTL (MONO) になっている。	・ ステレオ接続をした場合は、ステレオ / BTL切替スイッチをSTEREOにする。
	・ コントロールアンプのバランス・コントロールが、片側によっている。	・ コントロールアンプのバランス・コントロールをお好みに調節する。
	・ LチャンネルとRチャンネルの接続が逆になっている。	・ LチャンネルとRチャンネルを正しく接続する。
	・ 片側のスピーカーシステムの⊕⊖が逆に接続されている。	・ 左右のスピーカーシステムとも⊕⊖の接続を正しくする。
ハム音（ブーン、またはジーというノイズ）が出る。	・ ピンケーブルのアース側が端子に接触していない。	・ ピンケーブルのアース側が接触するように確実に接続する。
表示窓が点灯しない。	・ ディスプレイ設定が消灯になっている。	・ ディスプレイ・スイッチで設定をオンにする。

アフターサービスと品質保証について

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービス・センターまたはご購入店までご連絡ください。状況に応じた修理をさせていただきます。

本機の保証期間はご購入日より起算して標準2年間、または、プレミアム延長保証適用の際は、7年間です。標準2年間の保証書およびプレミアム延長保証登録申請書は本機のパッキングケース内に入っています。

プレミアム延長保証適用条件

弊社正規取扱店での購入証明（領収書やレシートの複写）を貼り付けたプレミアム延長保証登録申請書を弊社宛てにご返送ください。
※正規取扱店につきましては、弊社ホームページをご覧ください。弊社営業部までお問い合わせください。

- プレミアム延長保証制度では、製品に同梱される保証書による標準2年間の保証に加え、下記に分類する製品の種類により、保証期間を延長いたします。保証期間につきましては、後日お届けいたします「クラブ・ラックスマン」カードに記載されます。「クラブ・ラックスマン」カードはプレミアム延長保証適用の保証書となります。
- 製品別プレミアム延長保証期間
プラス5年（計7年間保証）：トランジスタアンプ、D/Aコンバーター
プラス1年（計3年間保証）：真空管アンプ、CD/SACDプレーヤー、アナログプレーヤー（現保証期間が5年間の製品は7年間、真空管等の消耗品は1年間となります。）
- プレミアム延長保証が適用とならない場合は、標準の2年間保証となり、修理の際は、製品に同梱される保証書と購入証明が必要となりますので、大切に保管してください。プレミアム延長保証が適用とならない場合は以下のとおりです。
 - ・ご購入店が弊社正規取扱店でない場合
 - ・「プレミアム延長保証登録申請書」のご送付が無い場合
 - ・弊社正規取扱店の購入証明が無い場合
 - ・購入証明の日付が弊社出荷日と著しく異なる場合（プレミアム延長保証登録をせず転売された場合等）

保証規約

製品は厳密な品質管理及び検査を経て出荷されておりますが、万一の自然故障の際には、ご購入店もしくは弊社サービスセンターまでお問い合わせください。保証の条件は以下記載のとおりです。

- 万一の自然故障につきましてはご購入日より保証書または「クラブ・ラックスマン」カード表面記載の保証期間無償修理いたします。（ただし真空管等の消耗品は1年間）
- 保証書およびご購入日を証明する領収書等または「クラブ・ラックスマン」カードのご提示がない場合、また保証期間外の修理の場合は有償にて承ります。
- 保証期間内であっても次の様な場合は保証対象外となり、修理は有償にて承ります。
 - ・保証書およびご購入日を証明する領収書等または「クラブ・ラックスマン」カードのご提示がない場合
 - ・使用上の誤り、改造、業務目的または海外でのご使用による故障、損傷
 - ・本製品以外（電源等）の原因による故障
 - ・火災、地震、水害、落雷およびその他の天変地変等による故障または損傷
 - ・オーバーホールおよび動作チェック等の点検作業
- 修理料金につきましては、予告なく変更することがあります。
- 本保証書および保証制度は日本国内のみ有効であり、海外でのご使用時には適用されませんので、ご注意ください。
This warranty is valid only in Japan.
- 保証書および「クラブ・ラックスマン」カードの紛失、盗難等による再発行は、原則としていたしませんので、大切に保管してください。また、保証書およびカードの不正な使用、改造の場合、保証効力が失効する場合がありますのでご注意ください。
- 修理品につきましては、ご購入店にご相談いただくか、直接弊社宛てにご送付ください。製品の梱包箱等はできるだけ保管いただきますようお願いいたします。
- プレミアム延長保証期間中の修理品輸送費につきましてはお客様負担となります。
- 修理品をご送付いただく場合は、輸送中の破損等の事故が無いようにご注意ください。弊社では輸送中の事故につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 修理のご依頼、お問い合わせにつきましては、別紙のサービス情報をご覧ください。